

【マテリアリティの特定】

当社は取り組むべき課題をパイオラックスグループとステークホルダーの2つの視点から整理しました。課題整理には「マテリアリティ マトリックス」を使用し、課題の重要性、位置付けを明確にしました。

＜パイオラックスグループのマテリアリティ＞

<p>非常に高い</p> <p>高い</p>	ステークホルダーの期待	地域社会での存在感 原材料 水と排水 生物多様性 労使関係 顧客の安全衛生 マーケティングとラベリング	エネルギー 大気への排出 廃棄物 雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等 コンプライアンス ガバナンス
		研修・教育 地域コミュニティ	人権評価 顧客プライバシー 間接的な経済影響
	パイオラックスグループにとっての重要性		
	<p>高い</p> <p>非常に高い</p>		

課題抽出にあたっては、以下のプロセスに沿って進めました。今回の見直しで、「コンプライアンス」と「ガバナンス」を新たに追加しました。

STEP1 社会課題の抽出

GRI スタンダードにも反映されているトリプルボトムライン(環境・社会・経済)の側面 34 項目を参考に、パイオラックスグループを取り巻く社会課題と、ステークホルダーが重視する、または当グループを評価する際に重視する社会課題について抽出しました。

STEP2 優先順位付け

STEP1で抽出した課題について、以下の内容に沿って優先順位を付けました。

- ① ステークホルダーの期待について大きく以下 3 項目に沿って抽出
  - GRI 要求／顧客要求／一般(株主・顧客・社員・地域社会等)要求
- ② パイオラックスグループの重要性について大きく以下 3 項目に沿って抽出
  - ・グループ内方針: 社長(グループ)方針・行動規範・環境方針等
  - ・社内活動: 協議会(営業・生産・品質・設計・管理)活動及び全社環境活動等
  - ・法的要求: 環境・雇用安全・政策・東証規定等

STEP3 妥当性の確認

STEP2で特定した課題について、パイオラックスグループの中期経営計画、経営戦略等も踏まえて妥当性を確認し、経営会議にて承認。特定された重要課題は各部門の事業計画に織り込まれ、それぞれの活動につながっています。

【ESG ビジョンと 2021 年度目標】

パイオラックスは 2030 年度に向けた ESG ビジョンを「PIOLAX ESG Vision 2030」として制定しました。これに基づき、2021 年度の目標を設定し活動しています。

PIOLAX ESG活動目標 2021

	マテリアリティ 関連する主なSDG s 課題	PIOLAX ESG Vision 2030	重点活動項目	KPI (年度の記載のない項目は2021年度目標)
E	エネルギー 大気への排出 廃棄物     	脱炭素社会と循環型社会を目指した企業活動	省エネへの徹底した取り組み	スコープ2：間接消費エネルギー（電気） 消費エネルギー総量削減 2022年度：3%削減 (2019年度比) 原単位（生産数又は売上高）当たりのエネルギー消費量削減 2022年度：3%削減 (2019年度比) 温室効果ガス：CO2排出量の削減 2022年度：10%削減 (2019年度比)
			廃棄物削減への取り組み	廃棄物削減 2022年度：6%削減 (2019年度比)
			資源の有効活用	リサイクル率の向上 90% 納入用ダンボールFSC認証採用率向上 2022年度：50%
			S	雇用 労働安全衛生 多様性・機会均等     
人権の尊重	人権問題への取り組み（ハラスメント防止） パイオラックス人権方針の教育実施 ハラスメント（LGBT含む）防止教育実施			
柔軟で多様な働き方の推進	ライフイベント（出産・育児・介護）に対する両立支援 女性育児休業取得率 100% 男性育児休業者数 1名以上			
	ダイバーシティと機会均等 女性管理職比率 3.0%以上 女性新卒採用比率 20%以上 障がい者雇用率 2.3%以上			
G	コンプライアンス   	公正・公平な取引と信頼関係の向上	CSR調達の向上	CSR関連方針の整備 取引先CSR遵守状況の確認 紛争鉱物問題への対応 90%以上 (調査回収率)
			ガバナンス   	ガバナンス強化による安定した組織運営
			リスクマネジメント体制強化 情報セキュリティの強化 新システム導入/ メール訓練実施 災害対策の体制整備 (感染症対策を含むBCP整備) BCP訓練実施	

## 【ステークホルダーエンゲージメント】

パイオラックスは多種多様なステークホルダーの要請や期待に応えるため、「ステークホルダーとの対話」を重視し、信頼の構築を目指しています。

ステークホルダーを通じて認識した課題を目標の策定や活動内容につなげ、企業価値向上に努めていきます。

主なステークホルダー	当社が担う責任／課題	主な対話／手段
お客様	パートナーシップ向上による 安心、安全で信頼性のある商品の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質で安全な商品の開発、製造、販売</li> <li>・次世代商品の開発</li> <li>・環境に優しい商品の開発</li> </ul>
従業員	従業員が能力と個性を發揮できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成/人事評価</li> <li>・ダイバーシティの推進</li> <li>・労使協議会</li> <li>・安全衛生</li> <li>・内部通報制度</li> <li>・ストレスチェック</li> </ul>
お取引先	公正・公平な取引と信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・購買方針説明会</li> <li>・表彰制度</li> </ul>
株主・投資家	企業価値の向上と適切な情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株主総会</li> <li>・決算説明会</li> <li>・機関投資家向けスモールミーティング</li> <li>・各種取材</li> </ul>
地域社会	地域社会発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティア</li> <li>・近隣小学校向け工場見学会</li> <li>・業界団体への参加</li> <li>・学生向け会社説明会とインターンシップの受け入れ</li> </ul>

【その他の取り組み】

設計開発

パイオラックスの設計開発は、高い創造力と確かな技術力により、開発提案型企业として、横浜テクニカルセンターを中心に海外拠点のアメリカ、イギリス、韓国、中国、タイ、インドに展開しており、お客様のニーズを確実に捉え、図面化できる体制を構築しています。

横浜テクニカルセンターは、設計開発のグローバルセンターです。販売・開発・調達部門を同フロアに配置し、部門間のシームレスな連携ができる環境を整え、グローバルでの開発力の「同期化」と「同質化」を推進しています。

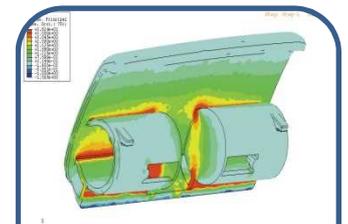
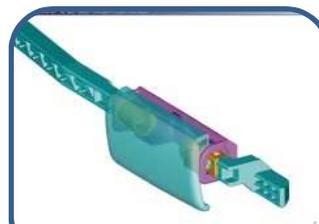
製品試験設備を真岡工場、富士工場、本社の3事業所に配置し最適な品質評価が行える体制を取っています。



構想検討会



図面検討



デジタルモックアップによるレイアウト検証と構造解析



製品環境性評価、実装耐久試験



素材の環境負荷物質評価

生産技術

開発提案型企業にふさわしい製造技術力の構築とグローバル同質化を目指し、ファスナーと開閉機構部品は真岡工場、燃料系部品と駆動系部品は富士工場を中心に製造ラインを配置し、継続的改善によるロスの排除、グローバル生産性の向上、新工法の開発に取り組んでいます。

工程紹介



線ばね巻き線加工



板ばねプレス加工



樹脂射出成形



セル生産ライン



省人化:ロボット組立ライン



自動化:フレキシブル組立ライン